

## 「すべての子どもに学びの保障を」 全小中学校でICT教育がスタート

「私たちは今どこにいるのでしょうか？」  
「図書館じゃない？」「職員室だよ」  
オンラインでつながるタブレット端末や大型モニターの向こうからクイズを出す児童と、映し出された映像をヒントに答える教室のクラスメイト。  
12月に全小中学校に配備されたタブレットを活用した本格的なICT教育が始まっています。



別室の友達がクイズを出しビデオ会議システムの操作を楽しく学ぶ。

### 小中学校の児童生徒に1人1台の端末

学校でのICT活用により、すべての子どもに学びが保障される環境の実現に向けた国の取り組み「GIGAスクール構想の実現」のため、飯山市では国の補助を活用し1161台のタブレット端末を購入。中学校の生徒に1人1台、小学校3年生以上の児童に1人1台を新たに配備しました。(小学校1・2年生児童には昨年度までに各小学校へ配備済みのタブレット端末などを活用)

### 飯山市のICT教育導入状況は

飯山市では平成28年に寄贈を受けた50台のタブレットを木島小学校に配備したこと皮切りに、昨年度までに計200台を市内各小学校に配備。また小中学校の全普通教室への大型モニター設置や、教員用タブレットの配備などを順次行っており、授業での教材提示、ALT(外国語指導助手)による動画等を活用した英語の授業、コロナ禍における密を防ぐためのリモート全校集会の取り組みなど、

学校の先生方の創意工夫により徐々にICT活用場面を増やしてきました。

### 授業での活用に向け先生も勉強

飯山市では今回の端末導入にあたり、子どもが将来、社会に出てからも学校でのパソコン操作の学習や経験を活



アプリケーションを効果的に活用するための教員研修の様子。

かせるよう、windowsの端末を選定。一般的にはiPadなどと比べて特に小学校低学年の児童などには操作が難しいとされる端末を、どう学校現場で活用していくかは、各小中学校のICT担当の教員で構成される「ICT活用研究会」を中心に研修や情報収集・情報共有を行い準備を進めてきました。また他の先生も全体研修や学校別の研修等を重ね備えてきました。

### ICT支援員の活用

本格的に端末を使い始めた1月からは、市でICT支援員を配置。各学校を巡回



慣れない操作も支援員が丁寧に指導。

する支援員が、実際に児童生徒にタブレットやアプリケーションの使い方の授業を行い、スムーズにICT教育の導入が進むよう取り組んでいます。

支援員による授業では、休校によるオンライン授業を想定したビデオ会議の操作方法などに加え、「自分がされたら嫌なことを書き込まない」などインターネットの基本モラルの指導も行われます。

### 更なる活用に向けて

本格的なICT活用はまだ始まったばかり。文部科学省が掲げる「GIGAスクール構想の実現」に向け、どの学校でも「文房具の1つ」としてすべての児童生徒が当たり前前に授業で使用したり、将来的には端末を家庭に持ち帰って学習したりすることができるよう、今後も学校と連携して取り組んでいきます。

### 飯山から全国大会、世界大会へ出場の皆さん

飯山市から全国大会、世界大会に出場される皆さんは以下の通りです。(氏名は敬称略、市内在住・出身者を掲載)

#### 第70回全国高等学校スキー大会出場選手 (2/6～10日 飯山市)

クロスカントリー	
沼田 唯聖	飯山高校3年
小笠原 舜	飯山高校2年
吉越 敬介	飯山高校2年
高島 侑希	下高井農林高校3年
高島 颯大	下高井農林高校2年
山崎 清	下高井農林高校2年
飯山高校リレーチーム 男子	
飯山高校リレーチーム 女子	
アルペン	
保坂 花	長野俊英高校2年
平井 颯馬	長野俊英高校1年

#### FIS ノルディックジュニア世界選手権出場選手 (2/8～14日 フィンランド)

クロスカントリー	
小林 千佳	早稲田大学
小林 皓生	中央大学

#### FIS フリースタイル&スノーボード世界選手権出場選手 (2/11～13日 スウェーデン)

スキークロス	
小林 竜登	三重県民共済スキークラブ (太田地区出身)

※全国中学校スキー大会及び国体冬季スキー大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

### AIが当たり前になる時代の教育を飯山の子どもに



飯山市教育委員会 教育長 長瀬 哲

飯山市には豊かな自然や景観、古い寺社や史跡、祭りなど、子どもにとって身近に生きた教材がたくさんあります。こうしたふるさと教育も、タブレットを活用して新たな発見につなげたり、写真撮影して絵日記に表したりすることができるよう活用してもらいたいと思います。

また、コロナ禍で休校も考えられる中、先生がオンラインで出した宿題を子どもがオンラインでもオンラインで行うことができる、こうした段階までは、新年度までにはできるようにしたいと考えており、現在ICT支援員による各小学校での授業支援を行っています。

これからはAIが当たり前前の時代。この時代に生きる子どもに対し、私たち大人ができることを常に考え、社会に出て役立つことができるようなICT教育に取り組んでいきます。

### 人権学習シリーズ

## 人は、人の傘になれる

城北中学校長 青木 修

標題の言葉は、数年前の愛媛県のキャンペーン広告にありました。

会社の中も 学校の中も 電車の中も 家の中でも、雨が降っていた。

…(中略)…

大切な人の 「心の雨」に 気づいてください。

心を守り、 自殺を防ぐ。

(愛媛県の広告より)

私たちの何気ない行為によっても、他の人を悩みや困りごとから少しだけでもやわらげることがができます。そして、ちょっとした傘を差し出すには、まず「心の雨」に「気づく・関心を持つ」ことだと訴えています。

城北中学校では、生徒会スローガン「Act on your opinion」自ら考え、発信・行動する生徒会」のもと、一人を大事に、自らの考えを持ち行動しようとしています。

4月の休校の際には「今、何ができるか」を考え、家でできるようなペットボトルキャップアートづくりの企画実践を進めました。「コロナ禍での文化祭・体育祭」

祭りにしても「何ができるか」「どうすればできるか」「気をつけることは何か」を考え、種目を工夫した企画運営ができ、参観者からもたくさん賞賛をいただきました。

また、人権集会では、身近な問題について生徒会で自作ビデオ制作、その事例について「何が問題か」「自分はどうか」「自分が動ずるのか」を全校で討論しました。当事者の思いを引き寄せ、様々な立場から課題や行動について意見を出し合い、見つめ合っていました。

徐々にではありますが、自分でできることを考え行動する意欲と実践力が育ってきています。学校では、このような活動を重ねて、まわりの人に対する関心と気づき、人と人とのつながりを考えることは、人権について学習を進める上でも大切な事として取り組んでいます。

城北中学校では、自ら考え、発信・行動することを大事に「おかげさま」の大切さも感じながら「傘いっぱい社会」をめざして生活しています。